

3章『あみたんの謎』8

「あら、私、案外有名なのですね。うれしいですわ」。突然、亜空間に現れたその人物が、セシルから「知ってる」と指を差され、素直に喜んだ。「セシル、あの子、誰なの？」。一方のカノンは、誰もいないはずと決めつけていた特訓場に、自分たち以外の人物が姿を現したことに動揺していた。

年は変身後のカノンとセシルと同じくらいだろう。つまり17か18歳。濃い緑がかったロングヘアに、所々が丸くふくらんだ特徴的なうす緑のカチューシャをつけている。衣装は、自分たちと同じく着物をベースにしているようだが、何か

あみたん娘

The NOVEL

酒井 直行

39



キャラクター原案 松原 秀典
イラスト 那智 那智

の武道系道着をコンセプトにしているようだ。淡い色の生地に紫色の帯が映えて見える。「彼女、東北ずん子さんっていうのよ」。セシルが言った。心なしか興奮しているよう

なさい。気を悪くしないで」「別に気にしないですわ。いつも笑われるんですよ、名前」。東北ずん子は余裕の表情で受け答えた。「どうして、東北ずん子さん

範囲は別に東北だけとは限らないんです。東北復興のためなら、私はどこへだって出かけますの。この前もイベントで東京の秋葉原に行ったばかりですし」「アキバ!? すっごい！ 私も超行きたい！」。カノンが思わず声を上げた。「でもここ、亜空間ですよ。私たち、ここでダンスと歌の特訓をするために来たんです。誰もいない空間だとばかり思っていたから」。セシルは申し訳ななさそうに言い訳した。

だ。

「ずん子？ なにそれ？」。

カノンが思わず、プツと吹きだした。

「カノン、失礼よ」。セシルが慌ててたしなめた。「ごめん

「よくご存じですわ。私は、宮城、青森、岩手、秋田、山形、福島

の東北6県を元気づけるために生まれたのです。でも活動

「誰もない？ あなた、おかしなことをおっしゃるのね。あなたたちがいらっしゃるじゃないですか」。東北ずん子は意味ありげに笑った。そして突然、語気を強めた。「どうやら私、あなたたちを倒すことが使命みたいですよ」

「あなた、おかしなことをおっしゃるのね。あなたたちがいらっしゃるじゃないですか」。東北ずん子は意味ありげに笑った。そして突然、語気を強めた。「どうやら私、あなたたちを倒すことが使命みたいですよ」